

はい!

やくも町議会です

第 90 号
令和 8 年 8 月
編集／議会広報広聴常任委員会



主な内容

	ページ
○補正予算他について.....	②
○議決・賛否一覧他（定例会・臨時会）.....	③
○町民と議会との懇談会.....	④
○議会活動の報告.....	⑦
○7名の議員が町政を問う（一般質問）.....	⑧
○常任委員会の活動（所管課報告）.....	⑮
○耳をすまして.....	⑯



第2回定例会 令和8年度一般会計補正予算

**1億1,015万9千円追加
(補正後の総額163億1,158万3千円)**

第2回定例会は6月3日から6月5日までの会期で開かれました。補正予算、条例の改正、専決処分の報告など、追加議案も含め、議案13件、承認1件、報告7件を審議し、いずれも原案の通り可決されました。

補正の主な内容

- 公債元金償還金（繰上償還分） 7,795万2千円
- 交通空白解消緊急対策事業 1,338万6千円
 - ・デマンド型乗合タクシー実証運航支援業務委託料他
- 各システム改修費 175万6千円
 - ・重度心身障がい者医療事務システム改修業務委託料他
- 新規就農者確保緊急円滑化対策事業補助金：245万1千円
 - ・経営継承や初期投資を包括的にサポートする制度
- 八雲中学校の放送設備修繕 262万9千円（専決処分の承認）
 - ・漏電による火災リスクを防ぐための緊急更新



議会の動き

(5月)

- 1日 八雲町役場庁舎等整備調査特別委員会小委員会
- 8日 八雲町役場庁舎等整備調査特別委員会
全員協議会
- 14日 総務経済常任委員会
議会運営委員会
- 21日 文教厚生常任委員会
- 29日 議会運営委員会

(7月)

- 6日 第4回臨時会
議会広報広聴常任委員会
- 16日 総務経済常任委員会
文教厚生常任委員会

(6月)

- 3日～5日
- 第2回定例会
- 3日 総務経済常任委員会
八雲町役場庁舎等整備調査特別委員会
議会運営委員会
- 4日 病院経営健全化調査特別委員会
全員協議会
総務経済常任委員会
- 5日 議会運営委員会
議会広報広聴常任委員会
- 18日 総務経済常任委員会
文教厚生常任委員会
- 25日 病院経営健全化調査特別委員会小委員会
八雲町役場庁舎等整備調査特別委員会小委員会



議会を傍聴してみませんか

次の議会は、「令和8年第3回定例会」
9月3日(木)午前10時から開会の予定です。

お気軽に足を運んでみてください。

YouTubeで映像配信もします

定例会・臨時会議件一覧

令和8年第2回定例会（令和8年6月3日～5日）			
議案第1号	八雲町一般職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例	報告第5号	令和7年度八雲町一般会計繰越明許費に係る歳出予算の繰越について
議案第2号	八雲町税条例の一部を改正する条例	報告第6号	令和7年度八雲町下水道事業会計予算繰越計算書について
議案第3号	八雲町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	報告第7号	令和7年度八雲町農業集落排水事業会計繰越計算書について
議案第4号	八雲町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	発委第1号	八雲町議会ハラスメント防止条例
議案第5号	八雲町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	発委第2号	東京一極集中の税の偏在是正及び地方の持続的発展に向けた施策の強化を求める意見書
議案第6号	八雲町介護保険条例の一部を改正する条例	発議第1号	航空自衛隊八雲分屯基地有効活用及び周辺整備事業推進特別委員会設置に関する決議
議案第7号	財産の取得について	発議第2号	急騰する奨学金の金利に対する負担軽減を求める意見書
議案第8号	辺地に係る総合整備計画の変更について	発議第3号	2026年度北海道最低賃金改正等に関する意見書
議案第9号	八雲町過疎地域持続的発展市町村計画の変更について	発議第4号	イランへの軍事行動の即時停止と外交による平和的解決を求める意見書
議案第10号	令和8年度八雲町一般会計補正予算（第5号）	発議第5号	殺傷能力を有する武器輸出の容認撤回を求める意見書
議案第11号	令和8年度八雲町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	発議第6号	核兵器禁止条約への参加・署名・批准を行うことを求める意見書
議案第12号	工事請負契約の締結について	発議第7号	教育予算拡充とゆたかな学びを求める意見書
議案第13号	工事請負契約の締結について	発議第8号	2027年度地方財政の充実・強化を求める意見書
承認第1号	専決処分の承認を求めることについて	発議第9号	すべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める意見書
報告第1号	専決処分の報告について	発議第10号	ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書
報告第2号	専決処分の報告について	八雲町役場庁舎等整備調査特別委員会中間報告	
報告第3号	専決処分の報告について	議員派遣の件	
報告第4号	専決処分の報告について	議会運営委員会の閉会中の継続調査申出について	
令和8年第4回臨時会（令和8年7月6日）			
議案第1号	工事請負契約の締結について	議案第4号	令和8年度八雲町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）
議案第2号	財産の取得について	報告第1号	専決処分の報告について
議案第3号	令和8年度八雲町一般会計補正予算（第6号）	報告第2号	専決処分の報告について

異議あり！

第2回定例会 賛否一覧（反対のあった議案を掲載）

賛成 ○ 反対 ×

議 件 名		採決結果	赤井	水野	横田	安藤	斎藤	黒島	牧野	関口	小西	三澤	倉地	寺田	宮本	大久保
			睦美	博美	喜世志	辰行	實	竹満	仁	正博	一雄	公雄	清子	広樹	雅晴	建一
発議第3号	2026年度北海道最低賃金改正等に関する意見書	原案可決	○	○	○	×	欠	×	○	○	○	○	○	○	○	－
発議第4号	イランへの軍事行動の即時停止と外交による平和的解決を求める意見書	原案可決	○	○	○	○	欠	○	×	×	×	○	×	○	○	－
発議第5号	殺傷能力を有する武器輸出の容認撤回を求める意見書	否 決	○	○	○	×	欠	×	×	×	×	○	×	○	○	×
発議第6号	核兵器禁止条約への参加・署名・批准を行うことを求める意見書	原案可決	○	○	○	○	欠	○	×	×	×	○	×	○	○	－

※大久保建一議長は賛否同数の場合に、その可否を決定します。

町民と議会との懇談会

1. 新庁舎について

- 国から補助金をもらっているの、早く進めてほしい。
- 公民館機能は入れてほしい。分散するとわからなくなるから。
- 雪が多い地域で、なぜあの設計でOKしたのか。
- あの設計士に決めたのは公私混同ではないのか。

2. 医療について

- 運転できないので地元で病院があって助かる。
- 総合病院なので一度に診療してもらえる。
- 産婦人科があるのは良い。
- 落部町民の7～8割は函館へ通っているのではないかと。函館から出張医が来ているけれど、名前を公表しないので、町民にはわかりにくい。出張医だけではなく、個人名を書いてもらえると行きやすい。



落部会場

3. 子育て・出産について

- みんな定額になったのは良い。出産祝い金は「地元で出産した人に限定すべき」との意見。

4. その他

- 卒業後Uターンした人に、奨学金免除制度を作してほしい。
- 生ごみの水切り等、ゴミ出しのマナーが問題。生ごみ乾燥機助成のさらなる推進を！
- 近所のごみ屋敷の対応をお願いして10年。悪臭異臭で窓も開けられない。一向に解決しない。
- 婦人部の活動が町内会婦人部と重なるので廃止にしても良いのでは？何とか調整してほしい。
- 防災に関して、車で避難した場合の対応も考えてほしい。



熊石会場

- 人口割合に対し、予算規模が大きすぎる。今後の予算規模の在り方をどのように考えているのか。
- 熊石地域に病院がなければ、安心して生活ができない。赤字を理由に縮小、閉鎖等はしないほしい。
- 内科医の充実をお願いしたい。
- 週1回でもよいので、皮膚科・眼科に出張してほしい。
- 総合病院に通院するために、往復のバス代が2000円かかり、治療費もあるので、年金では厳しい。2・300円の自己負担でできるよう考えてほしい。

- 議会中継を見ていて、議会運営がしっくり来ていないように見える。好き勝手な発言をし、態度が悪い。止めるべきところは止め、しっかり議論すべき。パワハラのような質疑はやめるべき。襟を正して議会運営をしてもらいたい。議会広報も私見が入り過ぎ。悪意を持った言葉遣いはやめた方がいい。
- 前町長が町内の街灯の維持管理を町で行うという話をしていたが、それはどうなった？
- 八雲熊石間の道路改良について、雲石トンネル改修だけでも早く実施してほしい。



皆さんの声を聞かせてください！



はぴあ八雲会場（昼の部）

- 新庁舎は出来るけど、公民館は？シルバーだと遠い。庁舎の中に、公民館機能を外すという事に疑問。
- 新庁舎の設計費1億9千万円が無駄になった。基本設計だけでも生かすことが出来なかったのか。報道で代替案の話を受けず、白紙にしたのは変。設計にかかった時間とお金ももったいない。
- 高齢になっても免許を手放なせない。今後乗り合いタクシーができることはとても助かる。
- ワインは、頑張っている若者がいるので、見守っていけるが、ウイスキーの6億円はもったいない。
- 立派な図書館があるから、飲食OKコーナーを作ったら、子ども達ももっと集まるのでは？ より有効に使用して、ここで子育てがしたいと思えるまちにしたい。
- 八雲町は魚も野菜も豊富で涼しく、2拠点生活に向いているから、空家等を活用してのPRが必要。
- 人口減少だけど、近隣では八雲は活気があるという声が多い。単体で頑張っても限界があるので、みんなで情報共有し、それぞれに協力し合って盛り上げていきたい。
- 財政が安定していると思って八雲町に移住してきたのに、4月24日の新聞記事で財政健全化へ事業の大胆な見直しを行うという記事が出て、ショックだ。
- 地元の病院にかかるようにといっても、手術はほかの病院を紹介してもらわないと不安になる。固定の信頼できる医師の確保はできないのか。
- 予防医学の観点で、プールや図書館に行ったらポイントがつき、たまったら景品。このような取り組みをしている自治体がある。八雲でも取り組みを考えて欲しい。
- 以前、リハビリの先生によるプールでの運動療法があったが、なくなった。復活して欲しい。
- 自分の町内会の自慢大会にすると、良い取り組みを他町内会も知り、知識になると思う。
- 公民館は田上建築士が設計した貴重な建物。存続させてほしい。

はぴあ八雲会場（夜の部）

①外国人労働者への対応について

社会保険未加入事業所での外国人労働者の税金・保険料徴収の問題提起、帰国後の未納問題解決のための給与天引き制度導入の提案。

②八雲間の交通・デマンドタクシー

熊石八雲間のデマンド交通の必要性の意見。

③津波避難タワー設置の要望について提案

今の役場庁舎の跡地に避難タワー、今の警察署の跡地に避難施設を。

④津波警報等の避難のあり方

昨年のカムチャツカ沖地震による避難の際には、商店等が営業中止し、飲み物がなくて不自由した。

⑤少子高齢化・町の衰退への中長期的な取り組みについて

- 交通、食の豊かさ、温泉など、北海道でも条件に恵まれた小さな町は多くないという認識であり、移住者の視点から、八雲町には客観的に見て発展の資源・条件があると評価。
- 首都圏（東京圏）でも高齢化が進み、介護施設等の負担が増すことで、都市部から“移り住む先”を求める層が出る可能性を認識。行政が中心となって、中長期計画を推進する取り組みを推進していくことを提案。
- 議会として、将来的に八雲町の人口規模をどの程度に想定しているのかを確認したい。その人口規模の見通し次第では、施設の集約化・統廃合、行政の形の変更が必要になると思うが、議会がどう考えているかを聞きたい。

⑥その他

- 町内各河川の水位低下について上流のダムが原因と認識、町議会による強い取り組みを願う。
- 山崎地区、今金町との境界付近に計画されている風力発電であるがオオワシなど鳥獣および林地への影響大について、町議会の意見を問う



議会懇談会 アンケートまとめ

参加・ご協力
ありがとうございました！

Q1 本日のご感想を教えてください。

- ・女性だけというのも、とても話やすく良かった。(多数あり)
- ・小人数だったので、言いたいことが言い合える楽しい会になったと思います。
- ・個人的に相談があり参加しました。近所トラブルでなかなか話すことができなかったもので、聞いていただけて良かったです。
- ・住民の参加が少ない点について、周知方法等に課題があるのでは。このような会は必須と思います。
- ・今までの中で一番よい懇談になったと思います。
- ・移住した方が八雲の良さを話してもらったので、色々話が広がり良かった。情報不足なので、こういうところに来て聞く機会があり、良いと思います。とても内容の濃い、次の展望に繋がる話がいっぱいできました。とにかく、新しい取り組みを作り出していく。ポイント制、町内会自慢大会、プールの病院リハビリ利用、少しでもいいから何か新しいことを開拓していかないと。

Q2 本日の懇談会で「言い足りなかったこと」を教えてください。

- ・老人の集まることを考えて下さい。・町立病院の今後の経営について
- ・世界耳吊り選手権に補助金50万円出してあげてください。
- ・落部でセミナーなど無料で受けられることがあれば、ありがたいです。(年金・マネーSNS運用時代にあったもの)・外国人ルーツの人々にたいする語学学校の設立を町で行う。・八熊線を整備してほしい。・町理事者側と議会の丁々発止の議論を期待します。
- ・行政のダウンサイジングも考える必要あり。
- ・生ごみをビニール袋からバケツ形態の容器での回収に切り換え。

Q3 今後の懇談会で取り上げてほしいテーマや開催方法についてご意見を教えてください。

- ・今日みたいなのを繰り返して、定着させるのが良いと思います。
- ・なかなか相談したいことがあっても、開いてもらえない等、あきらめていたが、今回思い切って参加して良かったです。専門家などの講習会なども、あってほしいです。
- ・夜に実施する方法もあるのではないかな。
- ・一次産業の振興を積極的に進めてほしい。
- ・あわびの養殖の再開を企業誘致、ウニの海中養殖・陸上養殖、サーモン養殖の大型化に伴いトラウト以外の可能性。・多種多様な海産物の養殖。
- ・女性が多いと話しやすいので、たくさんの方が参加できるように、回を重ねてほしいです。人が多いとたくさんの意見やアイデアがどんどん膨らむので、良い機会です。
- ・特にテーマがなくても良い。もう少し参加者が増えてほしいですね。
- ・今日のような中身を、もっともっと他の町民の皆様に広げてほしいです。
- ・是非、この形を続けてほしいです。
- ・新八雲庁舎にうす型・軽量太陽光パネルと蓄電池を組み合わせ、再生可能エネルギーを導入して、EVや家庭用蓄電池向けに。・充電サービスに利用料で町の収入を増やす。
- ・テーマ：再生可能エネルギーで町の税収を増やす。(市街地限定で！！)

第5回 世界耳吊り選手権と議会カフェ

【第5回世界耳吊り選手権】

6月7日、落部漁協前で2年ぶりに「第5回八雲世界耳吊り選手権大会」が開催されました。当日は特有の冷え込み「ヤマセ」の風が吹く中、ホタテ養殖の伝統技術である「耳吊り」のスピードを競う熱い戦いが繰り広げられ、会場は大きな歓声に包まれました。

会場内にはキッチンカーや地場製品の販売ブースが並び、多くの来場者で賑わいました。その中で町議会は「議会カフェ」を開設。お茶を片手に、町政に対する日頃の想いや地域の課題などについて、多くの町民の皆様とお話しすることができました。

また、同時に実施したアンケートには、約30人の町民の皆様にご協力をいただきました。誠にありがとうございました。皆様から寄せられた貴重な生の声やご意見は、今後の議会活動や政策提言にしっかりと反映させて、これからも暮らしやすい八雲町を目指し、皆様に寄り添う議会として取り組んでまいります。

寺田広樹



【耳吊り選手権時の議会カフェ】

Q1 八雲町の「もっとこうなったらいいな」と思うところは？

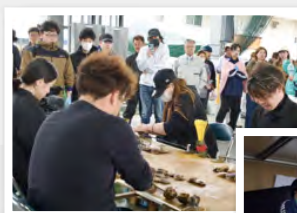
- 子育て・教育に関する願い・子ども手当を増やしてほしい・安心して子どもを産み育てられる町に・雨天でも子どもが遊べる場所がほしい・中高生が遊べる場所や活躍できる場がほしい・教育への予算が縮小しているが縮小しないしてほしいなど、子育てと教育環境の充実を求める声が多い。
- 暮らしの不便さの改善・バスの時間帯が不便・総合病院の医師が変わりすぎる・飲食店の不足
- 税金を安くしてほしい・日常生活の困り事を気軽に相談できる場がほしい等々の意見が寄せられた。
- 地域の魅力発信とにぎわいづくり・祭りやイベントを増やしてほしい・落部でも祭りをしてほしい・素敵な町なので町の良さをもっと外に発信・町民が自信を持てるまちにしたいという前向きな声が多く見られた。

Q2 若い人が「戻りたい」「残りたい」と思うために必要なことは？

- 働く場所の確保・産業の魅力づくり・仕事があれば残りやすい・一次産業の収入を安定させて後継者が安心して働けるように・企業誘致で雇用を増やしてほしい・障がいのある人も働ける職場がほしいなど働く場の充実が求められている。
- 生活環境の整備・交通の便を良くしてほしい・病院を充実させてほしい・婚活支援と手厚い子育て支援を！という声が多い。
- まちの活気づくり・店が増えてほしい・ファストフード店がほしい・イベントが増えてほしい・帰ってきた時に寂しくないまちにしてほしいなど、若者が楽しく過ごせる雰囲気づくりが求められている。高校でも地元愛を育むため一緒に取り組みたいと嬉しい声も。

Q3 八雲町について今思っていることを自由に！

- 八雲町の良さへの実感・自然が豊かで良い・海産物が豊富・総合病院の対応が親切・難病の子がいても訪問看護が受けられて助かっているなど、まちの良さを感じている声が多い。
- 地域課題への丁寧な対応を望む声・学校配置は地域と話し合いながら進めてほしい・公共交通手段を整備してほしい・個人店が減って寂しい・町長に浜をもっと見に来てほしい・色々な取り組みが中途半端な感じなど、地域の現状に寄り添った改善を求める意見が寄せられた。
- 未来への提案・期待・空き校舎を企業誘致に活用してほしい・LINEで情報発信を強化してほしい・奨学金を借りても八雲で働けば返済免除にしてほしいなど、まちをより良くするための具体的な提案が挙がっている。



7月2日(木)～3日(金)

毎年開催される「北海道町村議会議員研修会」に初めて出席した。広い会場で圧倒されながらも、近隣町の議員とも挨拶を交わし議員としての自覚も高まった。

今回の研修は、全国的な課題である議員のなり手不足を皮切りに進められ、その中で、自治体の目標には「住民福祉の増進」があることが改めて強調され、その達成に向けた重要施策が地方創生である。地方創生は人口減少の克服と地域経済の活性化を目的としており、多角的な取り組みが求められる。データによると、地方創生により人口減少速度は改善されているものの、依然として課題は多い。今回の研修を通じて、地域の未来を担う議員としての使命感を強く新たにした。



出席者代表 寺田広樹

一般質問

町政を問う！

《一般質問とは？》

町の仕事の全てを問いただし、自由な意見を述べ、それについて町の公式見解を引き出すことのできる機会。

※今回7人の議員が質問をしました。質問した議員本人が原稿を書いています。

Q 部活動支援について



よこた きよし 横田 喜世志 議員

これを受け、町は何らかの手だてが出来ないか伺う。

A スクールバス・町有バスの効率的な配車と運行に努める。

町長 痛ましい事故は、他人事ではなくどこでも起こりうる事案と受け止めている。

これまでもスクールバスの配車が出来ない場合に、町有バスの空きがあれば、可能な限り配車を行っている。

教育長 教育委員会は、スクールのバスの管理及び運行の取り扱い要綱を定め、配車を行っている。

中体連大会に配車が困難な場合は、貸切バスや交通機関の経費を町が負担している。

また、全道・全国大会へは必要な経費を助成金として支援している。

学校教育課長 大会等は、土曜

日・日曜日で5月、6月、7月に開催されて、なんとか配車しているのが現状であり、練習試合までは対応できてない。

2009年7月の通達で公共交通機関または貸切バスやタクシー等の営業自動車を使い、やむを得ない場合は学校長の許可を得て自家用車の使用を認めるとしている。

現実部費で旅費交通費を賄うことは困難で、教員や父兄の好意により試合や練習等に参加しているのが実態であろうと思います。

Q 新庁舎設計コンセプトの「楽しむ」について



を具体化できるのではないかと、提言型で質した。

町長答弁の要旨

「楽しむ」は、前設計案では公民館機能や大屋根空間を活用した町民交流の場を想定したコンセプトだったと説明。現在は庁舎内外を含め、町民が利用しやすい交流空間の配置を設計事業者と協議していく考えを示した。旧養護学校体育館については、避難所としての活用を前提としながら、多目的利用の視点も有効な考え方であると答弁。ただし、現段階では庁舎整備を優先しており、具体的な改修方針を示す状況にはないとした。

質問要旨

新庁舎の設計方針に「楽しむ」というコンセプトが掲げられていたが、公民館機能を含まない、庁舎面積4,500㎡に縮小された中で「楽しむ」がどのように設計へ反映されるのかを質した。庁舎周辺も含めて「楽しむ」を追求するのなら、避難所として活用を予定する旧養護学校体育館を子どもが天候に左右されずに使える屋内遊戯施設として整備し、避難機能と日常利用を両立させることを提案。さらに、シルバープラザ改修においても文化ホール機能を持たせた改修としたなら「楽しむ」という理念

Q 安全を最優先に！現行ルールの見直しは必須

部活動の移動手段について、福島県の事故を踏まえレ

ンタカー使用が原則禁止となっている中で、八雲町内の小中高校の実態と安全管理の現状をどう把握しているのかを質問。加えて、スクールバスや町有バスがひっ迫する状況下で、老人クラブなど既存利用との優先順位を見直し、子どもや部活動を優先した運用が可能ではないかと指摘。さらに、八雲高校に対して町としての支援姿勢を明確に示す必要性も訴えた。さらに町有車両に民間運転手活用可否、保護者負担や事故リスクをゼロにする為に『移動手段の再設計』『安全を最優先とし』『現行ルールの見直しを求めた』。

答弁者の発言要旨

町長 これまでもスクールバスの配車が困難な場合に町有バスを可能な限り活用してきたと説明。今後も教育委員会と連携し、安全対策を講じながら町有バスの活用を継続する考えを示した。

教育長

町内の中学校及び八雲高校への聞き取り調査の結果、レンタカーによる部活動遠征は確認されなかったと報告。一方で、スクールバスや町有バスの配車には限界があり、運転手不足や労務管理の観点から現状以上の運行は容

易ではないと説明。

また、高校は道立学校であり、中学校と同列には扱えないとしても、町として協力できる範囲で支援する考えを示した。

学校教育課長

スクールバス運転手の勤務実態について、平日の定期運行に加え土日の部活動対応もあり、労働時間や安全管理の面で負担が大きい状況を説明。

建設課長

福祉バス3台の年間運行実績や老人クラブ利用実績を説明し、直営作業員が道路維持業務と兼務しながら運行している現状から、運行体制には一定の余裕が必要であると述べた。

また、町有バスは町から発令された運転手が運転することを原則としており、民間運転手による運行は想定していないと答弁。

副町長

過去にスクールバス運行を民間委託へ移行した経緯について詳細は承知していないとしながらも、町有車両を民間事業者が運行する仕組みの可能性については、今後調査・研究したいとの考えを示した。

Q 中学校部活動の地域展開について



教育長 令和5年度から7年度

までの改革推進期間において、学校部活動地域移行検討協議会等を設置し、部活動改革の検討を重ねてきたが、具体的な方針を定めるまでには至っていないのが現状。

まずは部活動地域展開についての方針のたたき台を定め、その方針をもつて、関係者・関係団体と協議・検討していきたいと考えている。なお、柔道競技、剣道競技

問 令和8年度から13年度までの改革実行期間までに、土日休みは、原則全ての中学校部活動において、地域展開の実現を目指すなど、既

てはならない。

また、放課後の部活動指導者に学校教員が顧問になっている場合が多く、負担を感じている教員もいる。こうした、教員の働き方にも関連をする中学部活動の地域展開について、早急に町の方針を定めて革新して頂きたい。

性がある事、指導者を探している事を、町民誰もが認識できるように環境づくりをしてもらいたい。

教育長 町民への周知に努めた

い考えはあり、協議は継続して続けてきた。大まかな計画は大体できていくが、まだ詰めていない。

部活動の地域展開について、予算も相当かかることから、当然町長にも相談していかなければならない。決して急いでいないわけではない。

問 この地域展開には国の補助金がいけると設定されている。それらを使えるように、話し合われているか。

教育長 国の補助金も使える

ものがある。期限が決まっているものや、いろいろと条件のある補助金もある。今のところ八雲町として、具体的にそれらを使うという計画は考えていない。補助金があることや、それを使ったほうがプラスになることも分かっているが、まだその段階まで踏み込めていないのが実態。

問 部活動には、学校教員が指導者顧問になる場合が多い。自分が

望んで顧問をしているわけではない教員もいる。近年、若い教員が離職するケースが増えてきている。八雲町の実情をどう感じているか。

教育長 自分が専門ではない

部活動を担当することに、負担を感じている方は少なからずいると思う。八雲町は小規模校が多く、2人、3人で部活の担当者になることが多い。交代で携わり、比較的負担は解消されていると思う。学校では、在校等時間というタイムカードのようなものを切っていて、毎月教育委員会で集約している。結果、必ずしも中学校の方が、在校等時間が多いわけではない。小学校のほうが多い場合もある。そこから考えると、部活動があるから、必ずしも遅くなっているということではない。

Q 新たに生まれる果樹産業を育てよう！



こにし ゆういち
小西 雄一 議員

問 近年、新たな農業分野として果樹栽培への取組が進められている。この状況をどのように認識し、今後の地域産業としての可能性をどのように捉えているのか。

また、将来的な果樹産業振興に向けた考えと取組について伺う。

町長 果樹産業は八雲町の新たな基幹産業となる可能性を持つ重要な分野である。現在は醸造用ぶどうの試験栽培から事業化へ移行する段階にあり、地域おこし協力隊として活動した夫婦が就農し、町の委託を受けながら栽培管理を担っている。今後は、計画的に栽培面積を拡大し、ブランド化や販

路拡大を進めるとともに、民設民営によるワイナリー建設を目指す。

問 全国では、ワイン特区制度を活用し、小規模ワイナリーを核とした地域振興に取り組み自治体が増えているが、制度を活用する考えはあるのか。

また、ワイナリー整備には将来的な行政判断の基礎となる基本構想の策定が重要であるが、来年度予算において位置づける考えがあるか。

農林課長 ワイン特区の検討については、現在進めている。ワイン醸造の最小下限が6ℓ以上でなければ、醸造所としての認可が下りないが、ワイン特区では、2ℓまでの小規模でも認可が下りる制度であり特区申請や基本構想の策定等含め、調査と準備を進めていく。

問 今年4月から産学連携プロジェクトが東京理科大学含む複数の大学と、観光ビジネス・販路拡大・マーケティング・経営学・心理学といった視点からワインを通じて連携が開始された。この連携をどのような支援で応えていくか。

農林課長 委託醸造を受けた茂

木夫妻の考え方を最優先にしながらも、学生の知見を活用することは有効な取組であり、今後もPR全般、町HPの掲載等、協力策を研究する。

問 果樹産業分野における地域おこし協力隊の募集は検討するのか。

また、協力隊制度は、明確なミッションと卒業後の地域定着が必要であるが、果樹・ワイン産業がその受け皿になり得るのか。

農林課長 今後2千本ずつ植え、令和12年度750ℓボトルで、1万3千本ほどの醸造を見込んでいる。

果樹栽培の地域おこし協力隊の募集は考えていく。

また、農業全般において、協力隊制度を有効に活用しながら、地域へ新規参入を促進していく。



イメージ図

Q WEB情報発信の一元化について

問 情報発信の手段が多様化する中、行政情報のみならず、地域イベントや観光・物産、各種団体・民間事業者による公益性の高い情報についても、町内外へ効果的かつ分かりやすく発信していくことが重要である。現在、町ホームページや各種SNS、関係団体等それぞれが個別に行っている状況にあるが、利用者にとっては情報が分散し、必要な情報へたどり着きにくい側面もある。

そこで、民間を含めた公益性の高い情報について、八雲町ホームページ等を活用し、統一的なWEBプラットフォームから発信する仕組みを構築できないか。

町長 町としても同様な課題と認識している。公共性・公益性の高い情報については、官民を問わず情報発信の対象となり得るものと考えている。町HPを基軸とし、情報の集約や導線の整理することは、利用者目線の観点から検討する。先進自治体の事例等も参考に、既存のHPやSNSの活用方法を含め、より分かりやすく、必要な情報が届きやすい情報発信のあり方を模索する。

Q 域学連携を八雲町に活かすには！



みずの ひろみ 議員
水野 博美

問 八雲地区における「上智大学」との連携成果と中高生・町への還元策、学生の提言が町政への反映について伺う。また、酪農学園大学等との農業分野（6次化・ふるさと納税等）での新たな連携、スマート農業の推進、実習生とのつながりによる担い手確保を進め、若い人が農業の楽しさ、大切さ、これからの可能性や夢を持てるよう農業に特化した大学との連携を進める考えがあるか伺う。

町長・教育長・関係課長

【域学連携の現状と方向性】

現在、北里大学、札幌大谷大学、

上智大学、北海道大学と連携中。上智大学とは、教育交流を通じ、中高生の進路選択等に成果が出ている。大学生からの一次産業や町づくりへの提言は今後の参考とする。大学との連携での課題として、継続的な受け入れ体制の整備や研究・交流成果を地域にどのように還元するのか、また、中高生との交流での課題は、学校との事前打ち合わせの確保であり、当面は教育分野を中心に交流を継続する。大学の専門性を活かしたキャリア教育を推進し、地域課題への知見活用は今後内部研究するが、新たな農業系大学との即座の連携計画は現時点ではなく、課題に合う大学があれば今後とも大学と連携していきたい。

Q 八雲町の農業を維持するためには？

問 深刻な酪農家減少（5年間で25戸離農）に対し、今後の酪農維持・新規就農はどうあるべきか伺う。

町長・農林課長 酪農維持には、①スマート農業等の生産基盤強化、②ヘルパー組合への支援、③自給飼料向上を推進する。新規就農へは、大関牧場を活用した伴走型支援や資金の貸付、地域おこし協力隊の活用を行う。

問 3月の定例会で「農業・漁業は（中略）経営戸数も大きく減少していない」と町長の答弁があった。「農家の戸数」と「生産量」のどちらを基準に酪農業を維持できていると判断しているのか伺う。

農林課長 「農家戸数と生産量の両方が大事」である。法人化による集約で戸数が減った側面もあるが、生乳生産量は横ばいを維持している。現状として今の戸数を維持する。戸数を維持することには、耕作面積を維持することにつながり、耕作放棄地を出さないことが、地域の産業を荒廃させない一つの方策だと思っている。

問 具体的な後継者の見通しと、近年フェアでの問い合わせの減少や新規就農者がゼロになっている原因・対策を伺う。

農林課長 具体的な就農シミュ

レーションはできていない。近年は、法人への「就職」という形の就農が増えており、フェアのあり方も含めウェブ活用など時代に合った手法を研究する。

問 新規就農を目指している方が、大関牧場で研修する意義は何か。個人経営への就農とのギャップがある。同牧場の研修生は町にどのように貢献しているのかヘルパー組合を中核とした就農ルートが有効ではないか伺う。

農林課長 大関牧場は、未経験者が技術を学ぶ窓口であり、経験者はヘルパー組合から始めるなど就農希望者の考えによって、臨機応変に対応する。伴走支援という寄り添ったかたちで就農し、就農後も支えながら共有して地域で頑張っていく。大関牧場は、離農跡地を受け止めて耕作放棄地を防ぎ、生産量を維持することで町の酪農力の衰退を緩やかにする大きな貢献を果たしている。



Q 火災防止へ有害ごみ排出ルールの徹底を！



「い」という回答が100%。多くがリチウムイオン電池等を「燃やせないごみ」に混入させている実態がある。このままでは施設を復旧しても再発のリスクは消えないのではないか。

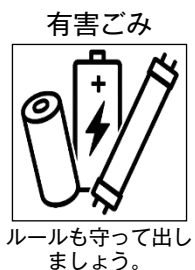
担当課長 リチウムイオン電池等の不適切な排出による火災事例は全国でも発生しており、排出ルールの周知徹底が重要であると認識している。現在はホームペー

問 リサイクルセンター及び広域処理施設「クリーンおしま」の相次ぐ火災により、ごみ処理体制に深刻な影響が出ている。リサイクルセンターの復旧費用だけで約6億6千400万円、クリーンおしまの関連費用を含めれば、さらに多額の負担が見込まれるが、復旧の見通しと原因分析は。

町長 リサイクルセンターは令和8年度末の再開を目指している。火災原因は、破砕機で発熱した何らかのものがコンベアに着火したと判定された。クリーンおしまの原因特定には数か月を要する見込みである。

問 独自に町民へ聞き取り調査を行ったが、有害ごみの具体的な種類や最終的な処分方法を「知らない

町民に適切な排出ルールが伝わるよう工夫を検討したい。



有害ごみ
ルールも守って出しましょう。

Q 燃やせるごみから衣類資源化へ

問 2030年度のごみ削減目標達成に向け、可燃ごみの多くを占める衣類の資源化が不可欠だ。特に独居高齢者の遺品整理等では、1世帯で衣装ケース50箱分もの大量の衣類が排出されるケースがある。現在のルールでは「切って燃やせるごみ袋に入れる」必要があるが、これだけの量を焼却するのは環境面からもコスト面からも問題だ。国のアクションプランでは衣類廃棄量の削減が掲げられており、自治体への支援も進んでいる。八雲町においても、衣類を「資源ごみ」へと分別変更し、透明袋を活用した住民負担の少ない回収体制を検討すべきではないか。また、民間業者と連携し、リユース（再利用）ルートを構築する考えはないか。

町長 過去の衣類回収は、引き取り事業者の確保が困難となり、令和元年度で終了した経緯がある。

現在は燃やせるごみとして処理しているが、ごみの削減と再資源化は循環型社会の形成に向けた重要な課題であると認識している。

課長 衣類は「資源」であるという認識を町民と共有できるように、情報の提供と機運の醸成に努めていく。今後は、国のガイドラ



燃やせるごみで排出される衣類のごみ
(イメージ)

インや他自治体の事例を参考に、住民負担や運用面も含めた回収システムの可能性を検討するとともに、民間事業者との連携についても具体的な引受先の確保に向けて調査研究を進めていきたい。民間事業者との連携についても、具体的な引受先の確保に向けて調査研究を進めていきたい。

問 ごみ袋の製造単価が上昇する中、分別が徹底されていけば透明な袋、市販袋での回収を認めるなど、指定袋の在り方を柔軟に考える時期ではないか。

課長 現在は資源ごみ（プラ・紙）のみ指定袋以外で排出を認めている。多品目については、選別コストの負担や減量化への影響を慎重に見極める必要があるが、将来的なごみ袋の安定供給体制も含め、今後の状況を視野に入れながら対応を検討していく。

Q 更なる子育て支援は？



あかい むつみ 議員
赤井 睦美

町長 これまでの施策は、子育て世帯の生活のゆとりに繋がっているほか、幼少期から高校卒業までの切れ目ない支援によって、保護者の精神的な安心感にも寄与していると考えられている。一方で、子育て環境は依然厳しく、経済支援だけでは解決できない課題も多いため、仕事と育児の両立支援などソフト面の充実も必要と考えている。出産祝い金については、既存施策との相乗効果が重要であり、今後は保護者の声を丁寧に聞きながら、財政状況や体制整備を踏まえ、持続可能な支援策を検討していく。

問 これまで八雲町では、給食費無償化、18歳までの医療費無償化、保育料軽減など、子育て支援を積極的に進めてきた。これらは保護者の負担軽減を通じて出生数の減少スピードを緩める狙いもあった。町長は、これまでの施策の効果と課題をどのように捉えているのか。

また、今年度から出産祝い金が始まったが、これをより効果的にするための追加支援策について伺う。



ソフト面での支援の充実を！

Q ピンチをチャンスに！

問 クリーンおしまの火災により、ごみの受け入れが不可能となり、町内でも仮置き場を増設するなど大きな負担が生じている。これを機に、ごみの分別徹底と減量化を進めるべきと考え、以下を伺う。

① 幼少期からの教育による意識醸成について町長・教育長の考えは。

② 町民の協力を得るため、より積極的な働きかけは可能か。

③ 焼却施設の今後の在り方について、現段階での見解を伺う。

町長 廃棄物問題は環境・経済の両面で重要であり、子どもから大人まで生涯を通じた教育と啓発が必要と考える。町としても広報や助成制度を通じて意識啓発に努めてきたが、今後は情報発信の方法や頻度をさらに工夫し、町民・事業者の協力を得ながら減量化を進める。焼却施設については、広域連合と同様に八雲町でも調査を進めており、投資額・運営コスト・人口推計などを踏まえ、経済的合理性に基づき判断する必要がある。

教育長

環境意識の醸成には時間がかかるため、幼少期から段階的に伝えることは重要。学校では社会科・家庭科でごみ処理の仕組みを学んでいるが、実生活への落とし込みは容易ではない。児童の生活振り返りに「分別への心がけ」を加えるなど、学校現場でできる工夫を検討する。

<今年度の塵芥処理費予算> 10億1858万8千円

昨年の予算は約5億円でしたが、今年度は火災による修繕費が加わったため2倍になりました。分別をしないことでこのような事故につながることを、みんなで自覚し、今後は十分に気を付けなくてはなりません。燃やせるごみの中にも、紙やプラ・生ごみをしっかりと分別することで、燃やせるごみの減量につながります。みんなでごみの減量化に努め、ゴミの少ない町を目指していきましょう！食品は使い切り、食べきって、生ごみにしない！

常任委員会の活動

令和8年5月～7月の
各常任委員会の活動です。

総務経済

八雲町デマンド型乗合タクシー
の実証運行について【政策推進課】

概要

デマンド型乗合タクシーを導入し、交通空白地区の解消及び移動が困難な町民の買い物、通院などの移動手段を確保する。

実証運行期間

令和8年10月から令和9年9月までの実証運行。

運行形態

○デマンド型 予約便のみ運行。
○ドア・ツー・ドア方式

(往路) 予約した方の自宅から市街地の乗降場所。

(復路) 市街地の乗降場所から予約した方の自宅まで。

対象エリア別運賃			乗降場所	
区間	運賃	対象エリア		
南部	500円	浜松、山越	八雲町役場	
	1,000円	野田生、桜野、東野、わらび野、旭丘、落部、入沢、下の湯、上の湯、栄浜	八雲駅	
北部	500円	立岩、花浦、山崎	八雲総合病院	
	1,000円	黒岩	八雲ユーラップ医院	
山間部	500円	鉛川、春日、大新、熱田	まさた循環器内科クリニック	
	1,000円	上八雲	マックスバリュ	
			エーコープ	
			ラルズマート	
			八雲郵便局	
			はぴあ八雲	

○乗合タクシー 運行区間毎に同一エリア内で予約した方の自宅を回り乗合で運行。

○運行日及び運行時間

運行日 毎週火曜日、金曜日(但し、祝日及び1月1日から3日を除く)

運行時間 往路、復路共に2便

(往路) 乗降場所の到着時間

1便 8時45分 2便 10時45分

(復路) 乗降場所の出発時間

1便 11時45分 2便 13時45分

文教厚生

文教厚生常任委員会では、町民生活や地域医療に関わる重要事項について報告を受け、調査を行いました。

八雲総合病院令和7年度決算速報

八雲総合病院の令和7年度決算速報では、収益総額約48億700万円に対し、費用総額は約56億9千200万円となり、差引収支は約8億8千400万円の赤字となりました。入院・外来収益はいずれも前年度を下回る一方、給与費は約36億4千500万円と前年度より約2億1千万円増加しており、厳しい経営状況が続いています。地域医療を将来にわたり維持するため、収益確保と費用構造の改善、病院機能や診療体制のあり方を含めた抜本的な経営改善が求められます。

熊石国保病院令和7年度決算速報

熊石国保病院の令和7年度決算では、収益総額約10億円、費用総額約11億7千200万円で、差引約1億7千100万円の赤字となりました。前年度より収支は若干改善したものの、人口減少が進む中、地域医療をどのように維持していく

かが引き続き大きな課題です。

八雲総合病院医師体制について

八雲総合病院の内科医師1名が6月末をもって退職したことが報告されました。地域医療を支える医師の確保は、診療体制を維持する上で重要な課題であり、今後の医師確保と診療への影響を注視していく必要があります。

八雲デイサービスセンターへの対応について

八雲デイサービスセンターについては、社会福祉協議会による運営が3月末で終了し、4月から社会福祉法人溪仁会による指定管理へ移行しました。令和7年度事業の清算に伴う資金不足額約257万円について、町が補填するための補正予算を9月定例会に上程する予定です。

「クリーンおしま」火災に伴う状況報告

「クリーンおしま」の火災に伴うごみ処理では、町内に可燃ごみ等が一時仮置きされ、6月10日時点で約21トンとなりました。今後、可燃ごみは代替施設で処理される見込みであり、火災対応や広域処理に伴う経費についても整理が進められています。

耳をすまして

町民の皆さまの声が聞きたくて、議会を飛び出し町内の色々な団体やサークルなどの皆さまの声を聞いてみました。今回は

八雲高校総合ビジネス科のみなさんです。

Q 1日の中で、どの時間が好きですか？

- ・運動している時が好き。特に、昼休み中のバスケット。リフレッシュできる。
- ・人と話すのが好き。人と話すきっかけができる犬の散歩が好き。
- ・絵を描く時が好き。シャープペン1本でモノクロの絵を描く。
- ・自身の散歩の時間。歩くルートなどをその都度考えながら歩くのが好き。長い時は2～3時間歩く。
- ・町の活性化のために行う課題研究が好き。実際に町に出て、色々なお店の人からお話を聞くのが好き。



八雲高等学校総合ビジネス科のみなさん

Q 八雲町の「ここはいい!」「ここが好き!」というところはどんなところですか？

- ・八雲町は食べ物おいしいのが良い!
- ・八雲町はとにかく自然が豊富!小動物にも会える!校庭でリスを見かけることもある!
- ・八雲町は田舎なのに不自由しないところ

Q 八雲町が良くなるためにどんなことが必要だと思いますか？

- ・SNSを使って八雲町の地場産品等を紹介し、もっと観光客に来てもらう。
- ・若者向けの遊び場や気軽に集まれるところを増やす。地場産を使ったイベントの開催。
- ・牧場の体験等ができる機会を作って、後継者を増やす取り組みをしたらいい。

Q 「八雲町議会」や「議会議員」に興味や関心はありますか?それはなぜ?

- ・正直関心はなかった。堅苦しいイメージ。
- ・興味がなかった。
- ・議会だよりをたまに読んで、どんな活動をしているかは見る。

Q 自分が町長になったらどんな町にしたいですか?

- ・老若男女の意見や要望を聞き、できる限りのこと

をして人口を少しずつ増やしたい!

- ・誰でも交流できる賑やかな場所をつくりたい!
- ・イベントに顔を出し、町民から話しかけやすい町長に!そして、明るい街にしたい。
- ・学生の声重視していきたい!
- ・町民の声をできる限り取り入れ、不便を無くしたい。何かイベントを開催したい!

Q これからやってみたいことは?

- ・食にまつわる「お祭り」をつくり、町内外の人たちに楽しんでもらえるようなイベントを作りたい!
- ・八雲町でしかできないような体験型イベントを作りたい!
- ・八雲町に残り、八雲町を盛り上げていきたい!
- ・競走馬が好きなので、八雲町に競走馬を育成できる施設をつくり起業したい!

・・・取材を終えて・・・

最初は緊張感がありましたが、次第に打ち解け後半は笑い声もこぼれる時間となりました。最も印象的だったのは「議員の役割」を話した瞬間です。生徒さんたちの表情がグッと真剣になり、熱心に耳を傾けてくれる姿に未来への頼もしさを感じました。この若き熱意を地域づくりへ繋げてまいります。

編集後記

昨年このコーナーで『物価高で生活が大変』と書きましたが、今年はさらに値上げが大きく、報道によると7月から250品目が値上げ、9月には300品目が値上げを予定しているとのこと。これからの私たちの生活はどのようなようになってしまおうのでしょうか。そうした値上げに対抗するように高市首相の夏のボーナスは319万円、鈴木道知事の夏のボーナスは16万円アップの258万円が支給されたそうです。

一方、全国的には若者の貧困が深刻で生活保護を申請する件数が増えているとのこと。地方では人材不足が深刻で、各産業の存続そのものが危機的状況にあります。

このような状況で国が今進めているのは、『国旗損壊罪』や『武器輸出』等と、国民生活の支援には程遠い内容です。政治は国民の幸せのために行われなければならないという事を改めてかみしめていきたいです。

議会広報広聴常任委員会

委員 赤井 睦美